



学校だより

横浜市立相武山小学校

11月号

令和5年10月25日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



「見て！見て！」

学校長 後藤 直樹

時折、薄い雲が程よく太陽を隠してくれる絶好のコンディションの中、参観者数の制限を設けずに運動会を開催することができました。開会式の中でも話したのですが、練習が始まった9月は常に暑さ指数を睨みながらの活動でした。異常気象と呼んでいた暑さが、これからの「例年の気温」となっていくと聞き、学校は早急に対策を考える必要がでてきました。また、そのような猛暑の中、運動会の直前の週には、4クラスがインフルエンザによる学級閉鎖となっていました。インフルエンザの流行は空気が乾燥する冬、というこれまでの常識が通用しなくなっていることも実感させられるこのひと月でした。このような状況の中で迎えた運動会ではありましたが、子どもたちの感想を読んでいると、演技や組体操での達成感と共に、学年集団としての一体感を書いている子どもたちがたくさんいました。それは演技をしている時の誇らしそうな表情にもはっきりと表れていました。また、コロナ禍では実現できなかった家族や地域の皆様からの大きな拍手は、子どもたちの胸に響き、達成感と共に深く思い出に刻まれたに違いありません。

運動会という場面に限らず、特にこの年齢の子どもたちは、家族や周囲の人たちに自分の良いところを「見てほしい」そして「喜ばせたい」、という気持ちを強くもっているように思います。そして、その思いは様々な挑戦への意欲や動機にもつながっています。私は、こうした経験を積み重ねながら、自己肯定感が育まれていくものと考えています。身近な保護者や先生に限らず、より多くの地域の方々も温かい目で応援してくれる。そう感じた子どもたちは、さらに努力を重ね、より大きな力を発揮することができるに違いありません。どうか日常生活の中でも小さな努力を見つけ、できれば結果だけではなくその過程を褒めていただければと思います。以前、学校だよりでもご紹介した「インディアンの教え」にもありましたが、励ましを受けて育った子は、自信をもちます。これからも保護者や地域の皆様と一体になって、相武山の子どもたちの良さを伸ばしていきたい。改めてそのような思いを強くした運動会の一日でした。

